

平成19年2月

原口由紀子 学位論文審査要旨

主査 黒 沢 洋 一
副主査 福 本 宗 嗣
同 岸 本 拓 治

主論文

Risk factors for death among the functionally independent elderly living in Japan
: a 3-year prospective cohort study

(日本在住の生活自立高齢者における死亡のリスク要因:3年間の前向きコホート研究)

(著者:原口由紀子、尾崎米厚、馬詰美保子、岸本拓治、矢倉紀子、岡本幹三)

平成18年12月 Yonago Acta medica 49巻 93頁~101頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は地域在住の生活の自立した高齢者のみを対象に、前向きコホート研究により、短期間における死亡のリスク要因を検討したものである。

その結果、生活自立高齢者の短期間における死亡には、健康度自己評価、家族内役割などの心理的・社会的要因が強く影響していることが認められた。

本論文の内容は、社会医学の分野において、介護を要しない自立した高齢者の短期間における死亡の予防に、臨床経験や検査データに基づく身体的要因へのアプローチだけでなく、心理・社会的アプローチを重視した、QOL向上に向けた対策の必要性を示唆するものであり、学術水準を高めたものと認める。